



Title	＜紹介＞ 伊井春樹著『人がつなぐ源氏物語 藤原定家の写本からたどる物語の千年』
Author(s)	川渕, 紗佳
Citation	語文. 2022, 118, p. 73
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95236
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

紹介

伊井春樹著

『人がつなぐ源氏物語 藤原定家の写本からたどる物語の千年』

川 渕 紗 佳

本書は『源氏物語』の享受について、成立当時の状況から、時代とともに本文が変遷・流動しながら伝来した背景を論じている。『源氏物語』の本文に異同が生じた理由や、本文校訂の意義を示し、現在広く用いられている「大島本」に依拠したテキストの問題性に言及する。以下、目次によって本書の構成を示す。

はじめに―『源氏物語』写本への招待

一章 新発見『源氏物語』「若紫」(一) 本文の異なり／二 『源氏物語』写本の伝来と系統

二章 『源氏物語』執筆の背景(一) 中宮彰子の若宮誕生／二 敦成親王誕生／三 書写で広がる『源氏物語』

三章 『源氏物語』の書写はどのようになされたのか(一) かな文字の広がり／二 冊子つくりの方法／三 『源氏物語』の読者の広がり／四 『源氏物語』のあらたな読者たち

四章 『源氏物語』の読者の広がり(一) 孝標女の物語へのあこがれ／二 別伝の物語／三 『源氏物語絵巻』の成立

五章 中世の『源氏物語』の本文校訂への動き(一) 『源氏物語』の和歌の世界への広がり／二 「河内本」の成立

六章 藤原定家の本文作成(一) 定家本の出現／二 『奥入』の成

立／三 物語の歌合

七章 御子左家の「青表紙本」の相伝(一) 定家「青表紙本」の伝来／二 阿仏尼の貢献／三 『源氏物語』の読みの方法

八章 「河内本」と「青表紙本」との対立(一) 「白氏文集」の受容をめぐる／二 濁点による意味の違い／三 異説の発生

四 優位に立つ「青表紙本」／五 「青表紙本」の性格

九章 「青表紙本」の再発見と流布(一) 一条兼良の『源氏物語』研究／二 定家本の行方／三 足利義政が所持した「青表紙本」

一〇章 「大島本」の本文の意義(一) 「大島本」の伝来／二 「大島本」の性格／三 新出定家本「若紫」巻と「大島本」

あとがき・引用文献出典一覧

まず、二〇一九年に発見された定家本「若紫」巻を取り上げ、現在広く用いられているテキストとの異同を示し、生じている表現の差異に言及する。そして、現代まで読み継がれてきた『源氏物語』本文を検証するため、それぞれの時代で人々が受容した姿に焦点を当てて論じる。最後には、現代のテキストの問題にも触れ、三条西家本と「河内本」を再評価する必要性を提示している。

本書の特徴は『源氏物語』の伝来と、本文の変容を鮮やかに示す点である。本文や享受だけでなく、『源氏物語』研究全体の一層の発展に寄与するに違いない。

(朝日新聞出版、二〇二二年二月、三五〇頁、一、七〇〇円＋税)
(かわぶち・ずずか 本学大学院博士後期課程・

日本学術振興会特別研究員)